

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年2月27日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672700145
法人名	有限会社 ひまわり苑
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	鹿児島県南九州市川辺町上山田4239番地5 (電話) 0993-58-9038
自己評価作成日	平成24年2月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成24年2月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・近所に入居者様のご家族様の畑があり、散歩がてら野菜の収穫ができ、また、敷地内の畑から、無農薬野菜が穫れる。豊富な野菜と新鮮な魚も使用し、栄養バランスのとれた食事が提供できる。

- ・食事が美味しいと、入居者の方が、家族や病院などで話している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・平成14年9月開設以来、地域密着型サービスの意義とグループホームの目的を受けとめた理念を掲げて、入居者や家族とともにゆっくり歩んでいる事業所である。

・代表者は、「入居者様に教えられ、働かせていただいている。」という信念のもと、家族的で居心地のよい暮らしを提供しようと努めている。

・職員は、利用者に食後のさりげない声かけや摂取状況と健康状態の確認をするなど、質の高いサービス提供に取り組んでいる。

・災害時の近隣住民や消防署との連携体制が確立されている。避難訓練を実施しての反省などが報告され、次の訓練に活かされている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念をホールや事務所に掲示し、よく目に触れるようにしている。申し送りやケア時に話をし共有していけるようにしている。	理念は、ホールや事務所に掲示している。サービス提供上の基本的、また重要な内容が盛り込まれており、経営者及び管理者・職員等で、共有しながら日常のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	経営者、管理者、半数ぐらいの職員が、近所の人であり、日常的な付き合いがなされている。近所の方が、野菜を持ってきてくださることも多い。災害時にも、協力をお願いしている。	職員は近隣在住者が多く、地域の情報収集や日常的に地域交流を行っている。近隣住民の見学や野菜持参での訪問がある。来客も多く、また、地域行事への参加や小学校との交流も行われている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	来客された方々から、移動の仕方など聞かれた際、実践して教えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際についての説明や報告を行っている。避難訓練を運営推進会議に合わせて行い、委員の方にも参加して頂き、意見を貰えた。全職員と、消防署員の参加も実現できた	中学生の体験学習日や避難訓練の日に、会議を開催する等の工夫をして、消防署員や市職員等の出席もある。会議は、外部評価結果報告や利用者への支援についての報告等を行い、意見を貰いサービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議にはほぼ毎回行政の方の参加があるので、より連携ができるようになってきていると思う。不明な点があるときは、行政の方に相談したり、質問したりして力を借りている。	市の担当者は、ホームの状況等の話を聞いたり、運営推進会議に参加している。また、電話での利用状況の報告や連絡・相談等の連携も行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年1回身体拘束・虐待に関する研修を実施している。日頃のケアの中でも、身体拘束にならないよう話をしている。	研修を実施し、職員全員で身体拘束や虐待のないケアの実践に努めている。日中の玄関の施錠はされていない。センサーチャイムは、来客時の確認に利用している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で、虐待について学んでおり、虐待がない様、みんなて話をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業を利用している方も入居しており、必要がある場合は、活用できるよう話はしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は、事前に契約書等を渡し読んで頂いた上で、説明をおこなっている。理解納得できたか確認の上で、署名捺印してもらっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>外部に第三者委員を定めている。ホームでの窓口、外部での窓口を入居時に説明するとともに、ホールに掲示している。</p>	<p>利用者や家族等からの意見の聴取に心がけており、出された意見等はサービスの質向上に反映されている。重要事項説明書に苦情相談の窓口の記載があり、入居時に説明がなされている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>改まるとなかなか意見は出にくくなるが、日常の業務の中や会話の中で、意見や提案を察知し、反映させていくよう努めている。</p>	<p>管理者は職員の意見や要望をよく把握している。日常業務の中で職員の提案をいち早く取りあげて、ケアに反映するように努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の状況を把握し、努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	働きながら、資格が取れるよう、勤務調整を行っている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	市内で、グループホーム交流会があり、研修や交流会に参加している。また、迷った事があった時は、連絡を取り、他の事業所の状況などを教えてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、要望や不安なことなど聞いて対応するようにしている。その後も、日々の介護の中で声かけし、傾聴していくようにしている。信頼関係を大切に考え、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、要望や不安なこと、分からない事について聞いている。その後も家族の不安、相談を安心して話していただけるよう、面会時に声かけしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネから情報を頂いたり、今までの経緯や現状を聞き、本人や家族の希望を優先しつつ、アセスメントを行い、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者に、昔の事や得意なこと（包丁磨ぎ）など、教えてもらうことも多い、人生の先輩として、スタッフも接している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際や、時には電話で、本人の状況や、家族への思いを伝えている。季節ごとに苑便りを作成し、本人の状況を個別にスタッフがコメントを書くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容室などに希望があれば、一緒に行っている。近くの方は、お友達や近所の方がホームに遊びに来ることもある。	利用者の友人・知人や近隣住民の訪問を気軽に受け入れて、馴染みの関係の継続に努めている。また、行きつけの美容院などの利用も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、それぞれが繁るようには話をしたり、聞いたりしている。認知症を理解できずに利用者同士で非難されることもあり、お互いの気持ちを察し、スタッフが間に入って、トラブルのないように支援している。みんなで作業したり、レクをしたりすることで、気持ちを共有し、一緒に暮らしていく仲間であると認識できるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院になった方には、病院にお見舞いに行ったり、相談にのったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	改めて質問しても、高齢者の方は、遠慮が美德と考える方も多く、なかなか出てこない。普段の言動や、表情・しぐさなどから読み取ったり、ご家族様から情報を貰うようにしている。	入居時に家族から聞いたり、医療機関やケアマネージャーからの情報収集に努めている。日常生活での利用者の言動から思いや希望などの把握を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、家族や本人から情報を収集するとともに、居宅のケアマネや、病院などから資料提供して頂いている。日々の会話の中から、これまでの暮らし方などを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録と引継ぎ簿を用いて、申し送りを行い、スタッフ全員が把握するように努めている。引継ぎ簿には、スタッフが確認のサインするように決めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の会話から家族や本人の意見や思いを聞き、ケアプランやモニタリングに反映させている。職員からも申し送り時や日頃の会話の中から意見を参考にしてプラン作成やモニタリングを行い、カンファレンスで確認している。	日常生活での本人の言動や家族の意見を聞き、職員の気付きや意見を基にして、ケアプランを作成している。また、日常生活の中でケアプランにそったケアを実践しながら、全職員でモニタリングを行っている。そのうえで、常に現状に即したプランに変更している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中と夜間に分けて、状況を記録して、申し送りを行っている。計画作成担当者は、介護記録も見直しつつ、アセスメントや評価を行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、医療処置を受けながらの生活の継続、墓参りや外泊、特別な日の外出の支援など、家族の希望や状況に応じて柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、有識者や地域代表の方、家族代表の方に参加していただき、意見を頂いている。地域の消防団の方にも協力を依頼している。毎年、小学校からの慰問や中学校の職場実習が恒例行事となり、交流している。太鼓踊りなど地域の行事にも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の希望に添い、在宅時から継続的に医療が受けられるよう支援している。必要があれば、家族にも一緒に通院してもらい、本人または、家族の意思決定を優先している。	入居前のかかりつけ医と情報を交換しながら、本人や家族の意向を最優先して医療機関の受診支援を行っている。必要があれば家族の受診立会いを求め、協力を貰っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>スタッフの中に2名看護職がおり、気軽に相談でき、健康管理が出来ていると思う。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中は、スタッフが交代で面会に行き、家族、病院と話し合いながら、早期退院に向けて話を行っている。医師や看護師、ソーシャルワーカーと連携を取り、状況を把握している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>急変時や終末期については、家族、かかりつけ医と話し合っ、スタッフ間で方針を共有している。</p>	<p>重度化や終末期に対しては、事業所として対応はしていない。長期入院となった場合は、本人や家族・主治医と話し合いながら、利用者本位に対応している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを作り、勉強会後もいつでも見れるところにおいてある。心肺蘇生法や救急手当についても消防署の方からの指導を受けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>近所の方や地域の消防分団に協力をお願いしている。ホームの見取り図を配布、説明している。避難訓練を実施している。</p>	<p>災害時の近隣住民や消防署との連携体制が確立されている。運営推進会議で避難訓練を実施しての反省などが報告され、次の訓練に活かされている。スプリンクラーも設置寸前であり、非常用の食料や備品の備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いなど気をつけ、穏やかな声かけをしている。入社時にスタッフ全員に守秘義務や個人情報取り扱いについて説明し、同意を貰っている。入居時に、プライバシーポリシーについて説明し、同意を得ている。	利用者の人格の尊厳を大切にしたい言葉かけやケア時のさりげない対応を心がけている。個人情報の取扱やプライバシーの確保については、入職時に説明し同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせて説明を行い、選択する場面を設けている。ケアの際も、本人の意向を聞くよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着るものを本人様に選んでいただけるようどれが良いか聞く。美容室は本人様の行きつけの店に行く。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり、昔ながらの郷土料理などを献立に取り入れている。調理、配膳や片付けは、その方の能力に合わせ、一緒に行っている。お好み焼きなど、テーブルで調理する事により、五感を刺激し、楽しんで食べられるようなイベントも行っている	利用者の希望を献立に反映させるようにしている。また、落ち着いて食事ができる座席の位置を考慮している。利用者は調理や配膳等で食事作りへの参加も行っている。職員は見守りできる場所で、食事を一緒にとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を記録し、栄養バランスが偏らないよう注意している。食事摂取量は、記録し、水分摂取量も、必要な人に関しては記録、全員についてチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアに努めている。夜間は、義歯洗浄の介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを観察し、声かけしトイレへ案内している。普段尿意が表出できなくてオムツをされる方も、可能な方は昼間はトイレに移乗介助し、排泄を試みている。排泄の際は、羞恥心を考慮し、席をはずして見守ったりしている。	リハビリパンツやポータブルトイレ利用者には、排泄パターンを把握して、排泄の自立支援をしている。日中はトイレでの排泄が行われるよう誘導介助し、自立支援を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維のある食品や水分の摂取を心がけている。毎日、排便チェックをしている。3日以上出ていない人には、のの字マッサージをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴状況を考慮しながら、利用者様に声かけし、希望を聞いている。季節に応じて、汗をかくて希望があればシャワー浴をする。	利用者の希望を優先しながら、いつでも入浴ができる体制である。入浴を拒む場合は、時間をおいて声かけしたり、翌日に声かけする等、気持ちよく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の行動（受診の為外出や作業状況など）に合わせて、疲れ具合を見て、休息を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬台帳を作成し、変更時書き換え、把握できるようにしている。薬情書をケース記録に綴り、介護職員にも目を通してもらい、勉強会をしている。事故が起きないように細心の注意を払うよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後には食器を片したり、洗濯物干しやたたみ方など、その方に合わせた作業をして頂き、入居者様によっては、自分の仕事だと認識されている方もおり、スタッフが言わなくても、進んで行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気や利用者様の希望、体調を考慮しながら、散歩に誘ったり、ドライブに行ったりしている。イベントにも、希望により見学に出かけたりしている。墓参りも、家族と協力しながら行っている。	天気のよい日は、日常的に散歩に出かけている。買物にも利用者の希望や体調を考慮して対応している。花見や小学校の運動会・地域の行事等の外出支援を行い、事業所に対応できない外出は、家族の協力を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	所持金把握した上で、自分で持っている方もおられるが、何処に保管したか忘れ、「失くした」「盗られた」と言う事例があり、金銭の自己管理については、消極的である。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	本人様の希望があれば、事務所の電話を利用し、電話できるようにダイヤルを押すなどの介助はしている。電話がかかってきたときも、本人様に伝え、取次いでいる。手紙も、必要に応じて代読や代筆などの介助をしている。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	毎朝、夕掃除をして、快適に過ごせるようにしている。季節感を取り入れた飾り付けを行うようにしている。	共用空間は、季節のものやさりげない飾り付けがしてある。掃除がゆき届き清潔である。仏壇や神棚が設けられ、落ち着いた雰囲気の良い暮らしをしている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	和室にソファがあって、利用者様同士ゆっくり過ごしている。また、お互いの居室を行ったり来たりして会話したり、一緒に過ごしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>昔ながらの使い慣れた家具やお位牌を持って来られている方も折り、家族の写真などを飾ったり思いのある部屋にしている。</p>	<p>居室は、愛用のものや馴染みのものを飾り、それぞれ個性がある。入居当初や病状観察の必要性から、本人や家族の了解のもとに居室を配慮したり、利用者の希望を受け入れるなどして、居心地よく過ごせるようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>	<p>ベッドの高さを調節して、立ち上がりしやすくしている。廊下、トイレ、風呂など手摺がついており、安全になるべく自立した生活ができるよう心がけている。</p>	/	/

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない